

学報

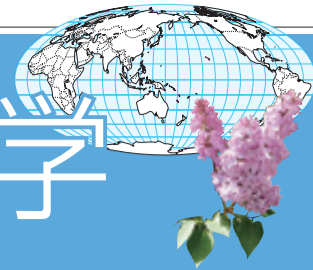
学校法人 北海学園

北海商科大学

商学部 [商学科・観光産業学科]

アジアの時代にアジアを学ぶ

Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.40

2026.6.13

発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
地下鉄東豊線「学園前」駅直結
TEL:011-841-1161(代表)
FAX:011-841-0801
https://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラポット

主な記事

- 2. 学部長挨拶 ————— 2面
- 3. 研究科長・学部長・センター長紹介 ——— 2面
- 4. 卒業式挙行 ————— 2面
- 5. 留学生修了式 ————— 2面
- 6. 入学者選抜結果 ————— 3面
- 7. 新入生ガイダンス・優秀学生表彰 ——— 3面
- 8. 課外活動の紹介 ————— 3面
- 9. 就職支援について ————— 4面
- 10. 特集座談会「韓国語弁論大会」————— 4面
- 11. 交換留学生歓迎会・留学生紹介 ——— 5面
- 12. 留学報告 ————— 5面
- 13. 留学便り ————— 5面
- 14. 「研究のいま」伊藤昭男教授 ——— 6面
- 15. 中国語スピーチコンテスト ————— 6面
- 16. 「研究のいま」水野俊平教授 ——— 7面
- 17. ゼミ訪問 三田村ゼミ ————— 7面
- 18. レスブリッジ滞在記 坂口先生 ——— 7面
- 19. 新任教員・職員紹介 ————— 8面
- 20. STAFF NOW! ————— 8面
- 21. 新刊紹介 ————— 8面
- 22. カウンセリングルーム ニュースレター13 — 8面
- 23. 行事予定 ————— 8面

2026年度 入学者 191名を迎えて!



令和8年度 入学式挙行

2026(令和8)年度入学式が4月3日(金)、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、学部190名、商学研究科修士課程1名、合計191名の新生を迎え、保護者・ご来賓の皆様、教職員列席のもと挙行されました。

堂徳学長の式辞に続いて、新入生を代表して、能登 菜乃通(札幌国際情報高校)さんによる代表宣誓が行われました。

式場は本学の教育目標である「アジアの時代にアジアを学ぶ」を学ぶとする志をもった新入生の晴れやかな息吹に溢れ、新たな門出を迎えるにふさわしい入学式でした。(事務長 栗原 隆文)



2026(令和8)年度 第50回入学式 学長式辞

新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。本日、大学院修士課程1名 商学部190名、計191名の新生を迎えられますことを教職員一同、大きな喜びとしております。

また、保護者やご家族の皆さま、ご来賓の皆さま、関係の皆様とともに盛大な入学式を挙行できますことは、誠に感慨深く、意欲あふれる新入生を迎えられたことを心より嬉しく思います。

北海商科大学は、前身の北海学園北見大学から、2006年に現在の札幌豊平区に移転し、地下鉄に直結した恵まれた都市環境のもとに開学して、本年は20周年を迎えました。

また、北海学園北見大学の開学からは50回目の入学式となりますので、記念すべき年に当たります。その意味では、本学の新たな歴史は、この度入学された皆さんが、築き上げて行くものです。教職員一同も、所定の入学試験に合格された皆さんとともに進取の気概をもって、独自の校風を築くことを楽しみにしております。

さて、今日は生成AIやIoT等をはじめとした技術革新が急激に進む一方、グローバル化の行き詰まりや、地球環境問題等の深刻な課題が指摘されるなど、まさに転換期の様相を呈しています。皆さんが選択した大学進学という先のステージには、社会の担い手としての長い人生が待っています。今後も続くと思われるVUCAの時代は、先行き不透明で予測困難なものであり、「よりよい社会の形成者となるための資質・能力」を身に付けることは容易ではありません。

しかし、皆さんは中学から高校の3年間余りを新型コロナ禍において、我慢の多い生活を乗り切りました。そこでは「ICTを駆使した個別最適な学びと、行事や部活動などに工夫を凝らした協働的な学び」に努め、しなやかさや逞しさを育まれたことでしょう。

また、2022年の18歳成人への法令改正に伴い、皆さんは高校生から成人年齢に達していましたので、成人としての基礎的な資質を身に付けてこられたことでしょう。そうした皆さんが大学進学のお機を得ました。もとより、大学は主体的・自律的に学び、人格形成に専心できる場です。皆さんには、ぜひ、この恵まれた時間と環境を活かされることを期待します。その期待は2つあります。

まずは、「期待される学び」についてです。

本学は、新しいアジアの時代を見据え、言語・文化・社会を基礎に、観光を含めた幅広いビジネス活動の基本となる知識を広く深く学ぶ教育を展開しています。

そのため、本学では多彩なカリキュラムを用意するとともに、少人数教育を重視し、研究と教育を統合する人材育成プログラムを展開しています。

皆さんには、自らに適合した学習プログラムを創造し、自らをイノベートして下さい。



また、海外提携大学である中国の煙台大学と山東大学、韓国の大田大学校、カナダのレスブリッジ大学とは、積極的な交換留学や各種交流を長く実施してきましたが、昨年から、これに加えて韓国の順天大学と北京連合大学との連携協定を締結するなど、国際的な人材育成に努めています。

さらに、一昨年から「データサイエンス・AI論」を開講しましたので、DX社会の進展に応じて、AIやデータを活用するスキルを向上させて下さい。

皆さんには「国際ビジネスと国際観光の分野でリーダーシップを発揮できる優れた人材の育成を目指す」という本学の使命を再認識して、強い信念をもって学習に励んでもらいたいと思います。

次に、「人格の形成」についてです。

大学は高校までと違い、自分の行動を自分で律することが求められます。大学4年間を有意義な時間として将来につなげられるかは自分次第です。自由な時間に流されることなく、何をすべきかを考え、行動して欲しいと思います。とりわけ、高校までの履修主義からノングレードの習得主義へと日常生活が変化中、自ら進んで友を求め、新たな出会いと有為な体験を通じて、自己鍛錬の日々を過ごして欲しいと願っています。大学では、サークル活動やボランティア活動をはじめ、インターンシップやアルバイト等の様々な体験を通じて、社会と関わり、社会の形成者としての自覚を深めましょう。

そのことは、意見や立場の異なる人々との協働を通じて、ウェルビーイングな未来を築くに必要で人間力を涵養させることなのでしょう。多くの出会いと協働の体験を通して、自律した人間性豊かな人格の形成に結びつけて欲しいと思います。

終わりに、本学の母体である北海学園の歴史は古く、創立は141年前に遡ります。現在、北海学園は、本学の他、北海学園大学、北海高校と北海学園札幌高校を設置し、1万余名の学生・生徒が日夜、勉学や課外活動に精を出しています。

学園の卒業生は、道内はもとより、国内外で活躍しています。今日、皆さんは、北海学園の仲間として迎えられました。ぜひ、仲間入りの第一歩として、明日の登校から「おはよう」の挨拶からはじめませんか、本学の教職員は笑顔で応えて参ります。

皆さんには、今日の喜びを忘れず、明日への飛躍を確かなものとするよう、健康に留意し、精一杯努力することを期待して式辞といたします。

令和8年度 学部長挨拶



商学部長 佐藤 千歳

1年生の皆さんは進学、2年生以上の皆さんは進級おめでとうございます。思い思いの春休みを過ごして大学構内に集まった皆さんの活気のある様子に、教職員一同も背中を押される思いでした。

同時に、再び「戦時下」で迎える新年度ともなりました。この原稿を書いている4月22日にも、停戦合意したはずのパレスチナ自治区ではイスラエルの爆撃によって市民が死亡し、イランと米国の休戦協定は難航しています。ロシアによるウクライナ侵略も終わりが見えません。これら3つの戦争はいずれも、日本の同盟国である米国が深く関与しており、戦争がもたらす環境の変化は、私たちの生活にも直接的な打撃を与えています。

新年度の授業でも、3つの戦争がしばしば論じられています。例えば戦争の背景として、米国主導から多極化に向かう国際秩序の変化が挙げられます。それは、世界各地からの資源調達に依存する日本経済にとって、外部環境の長期的な悪化を意味します。

他方、危機的状況が社会や経済の肯定的な変化を生んできた歴史も想起する必要があります。外部環境の激変は、エネルギー構造の変革や技術革新の強い動機となります。政治についても、3つの戦争を生んだ自国中心主義や権威主義に対する疑問が、世論の側から上がり始めています。

危機と変動の時代の希望は、知識や思考、それに経験を通じて生み出されます。本学は本年度も、そのような知識や思考力を育て、多様な経験を共有する場となっていきたいと考えています。

令和7年度 卒業証書・学位記 授与式挙

2025(令和7)年度卒業証書・学位記授与式が3月18日(水)、札幌パークホテルにて挙行されました。今年度は大学院商学研究科ビジネス専攻修士課程修了生1名、商学部卒業生159名(商学科115名、観光産業学科44名)を代表して、孫敬朋さん(修士課程)に学位記が、廣谷敬叶さん(商学科)、平尾菜奈美さん(観光産業学科)に卒業証書・学位記が授与されました。また、教育職員免許状取得者を代表して、木村巴香さんに免許状が授与されました。その後、学業成績優秀学生各1名(商学科・廣谷敬叶さん、観光産業学科・平尾菜奈美さん)に表彰状と記念品が授与されました。最後に学歌を聴き、卒業証書・学位記と4年間の思い出を胸に、卒業生は会場を後にしました。

(事務長 栗原 隆文)



卒業証書・学位記授与式(写真上・中)、卒業生集合写真、卒業生を送る会(写真下)



留学生修了式



令和7年度交換留学生修了式を令和8年2月18日(水)午前11時30分より学内の会場で挙行いたしました。交換留学生の内訳は、大田大学校から2名、5名を受け入れている中国煙台大学からは3名の合わせて5名です。今回の日程は中国国内の春節と重なり2名の学生は欠席となりました。まずは堂徳将人学長より一人一人に修了証書が授与されました。続いての祝辞では、2006(平成18)年度よりの長きに渡る来歴を踏まえ、修了生のみなさんには、日本を理解されたうちは国境を越えた架け橋となるよう、アジアに生きる仲間として今後も来札し続けていただきたいとの励ましに続き、本学大学院への進学もぜひ視野に入れていただきたいとの思いが伝えられました。修了式のあと写真撮影をし、それから食事会を催しました。歓談のなかでは各々自らのお国事情と在札中の様々な出来事とを語り合いながら、人生経験を豊かに膨らませてきた様と今後の進路展望を披露し相互交流に邁進する様子が垣間みられました。修了生のみなさんには本学課程を終了した未来のアジア人としてますますのご活躍をお祈りいたしております。(国際交流センター長 原子 智樹)



堂徳将人学長より修了証書が授与された修了式と集合写真

研究科長・学部長・ センター長紹介

- 大学院研究科長 佐藤 博樹 教授
- 商学部長 佐藤 千歳 教授
- 教務センター長 池ノ上 真一 教授
- 学術発展センター長 水野 俊平 教授
- 入試・広報センター長 三田村 保 教授
- キャリア支援センター長 伊藤 寛幸 教授
- 学生支援センター長 村松 祐二 教授
- 国際交流センター長 原子 智樹 教授

令和8年度 入学者選抜結果および広報活動報告

2026年度の入学者選抜では、学校推薦型選抜（指定校制・公募制）および総合型選抜（I期・II期）において、書類審査と口頭試問に加え、入試区分に応じた小論文やプレゼンテーションを通じて、高校までの学びや課外活動、進学意欲、基礎学力を総合的に確認しました。一般選抜および大学入学共通テスト利用選抜では、大学での学びに必要な基礎学力を重視した選抜を実施しました。総合型選抜は63名が合格。学校推薦型選抜では、指定校制52名、公募制3名、併設校3名が合格。特別選抜（海外帰国生徒）1名が合格し、いわゆる「年内入試」による入学者数は122名で、入学定員180名の約7割を占めています。年内入試の比率が高まる傾向は全国的にも見られ、本学でも同様の動きとなりました。一方、2月実施の一般選抜は志願者87名、大学入学共通テスト利用選抜は167名の志願があり、前年とほぼ同水準でした。

2024年度入試から新たに導入した「入学者選抜成績優秀者奨学金」は、一般選抜および共通テスト利用選抜I期の合格者を対象としており、今年度は9名に奨学金が授与されました。また、年内入試合格者には、英語・韓国語・中国語、国語に触れるEラーニング課題を実施しています。これにより、高校から大学への円滑な接続を目指しています。

2026年度の入学者数は187名で前年に引き続き入学定員を上回る学生を迎え入れることができました。これは、留学プログラムや、データサイエンス・AI関連科目の開講など、本学の教育内容が評価された結果と考えられます。今後も社会や地域の変化を的確に捉え、より魅力的な大学づくりを進めてまいります。

オープンキャンパスは全5回開催し、参加者は536名でした。学生ボランティアの活躍もあり、参加者からは「学生の成長が感じられる」との声も寄せられています。2024年3月より本格運用を開始したInstagramも好評です。ぜひご覧ください。

https://www.instagram.com/hokkai_shoka

（入試・広報センター長 三田村 保）

優秀学生表彰と 新入生ガイダンス



令和8年度新入生オリエンテーション



6

8

昨年のオープンキャンパス（9月28日）の様子

課外活動の紹介

「卒業生を送る会」において、学生支援センター長表彰おこなわれる

例年、卒業式終了後に開催される送る会では、卒業生の在学4年間の課外活動を対象とした学生支援センター長表彰がおこなわれます。

2025(令和7)年度も3名の個人表彰がおこなわれました。福村柚佳さんと佐野亜月さんの2名はともに本学オープンキャンパスの学生スタッフとして在学中様々な業務に従事しました。リーダーやサブリーダーを務め、後輩学生の指導育成などに励み、インスタのリアル動画に登場するなど本学PR活動にも意欲的に取り組みました。

また、河合秀吾さんは全日本学生フルコンタクト空手道選手権大会の一部重量級の部において、2022・2024・2025年の三度の全国大会で見事優勝を果たしました。練習での真摯な姿勢も評価されました。（学生支援センター長 村松 祐二）



令和8年「卒業生を送る会」の表彰の様子。（左から河合秀吾さん、佐野亜月さん、福村柚佳さん）

地域の花壇整備に参加しました

5月24日(日)午前9時より例年恒例となっている本校校地周囲の植栽がおこなわれました。これは本学が立地する豊平第17分区町内会による歩道上の花壇への花植え行事にあわせ、本学でも学生と教職員が花植えを実施するものです。

当日はあいにくの曇り空で、肌寒さを感じるぐらいの気温となりましたが、町内会の皆様や隣接する札幌留学生交流センターの留学生とご家族も加わって、楽しみながら作業を無事終えることが出来ました。（学生支援センター長 村松 祐二）



環境ボランティアサークル、交換留学生も参加した花壇整備活動

大学での学びとは—AI時代に求められる人材

これからはAIが多くの仕事を担う時代になることが想定されています。だからこそ、大学での学びも新しくならなければなりません。これから大切なのは、単に知識を覚えるだけでなく、自ら問いを見つけ、考え、多様な人と協働しながら課題を解決する力です。大学では、受け身ではなく主体的に学ぶ姿勢が何より大切です。これまでの「手続きをこなす学び」から、「自ら考えて動く学び」へ。失敗をおそれず、積極的にさまざまなことに挑戦し、未来を切りひらく力を育ててください。（教務センター長 池ノ上 真一）

優秀学生表彰

3月25、26日の両日に、新2・3年次の学生を対象に、北海商科大学教育振興資金による学業成績優秀学生表彰式を実施しました。学業成績優秀学生として通算GPAに基づく成績評価で上位3位までの学生3名を選出し、学長より表彰するとともに、奨励金を授与しました。



学業成績優秀学生表彰式（写真左：新2年生左から佐々木秋花さん、堂徳学長、安藤れいなさん。右：新3年生左から後藤亜由未さん、久保詩音さん、小笠原海麗さん、堂徳学長）



写真は大学祭実行委員会、下は軽音サークル



令和8年度 サークル一覧

体育	軟式野球部
体育	バドミントンサークル
体育	フットサルサークル
体育	陸上競技部
体育	バスケットボールサークル
文化	環境ボランティアサークル
文化	韓国語サークル
文化	軽音サークル
文化	教育研究会
文化	中国語サークル(歓々喜々)
非公認	空手同好会
非公認	ゴルフ同好会
非公認	スカッシュ同好会
非公認	ボードゲーム同好会
非公認	よさこい同好会
運営団体	サークル連合執行部
運営団体	体育祭・大学祭実行委員会

就職支援について

2026年3月卒業生の進路は、卸売・小売業、情報通信業、金融・保険業といった商学の中核分野を軸にしつつも、特定業界に偏らない広がりを示しております。とりわけ「その他」が大きな比率を占める点は、本学で培われたマーケティング力、会計知識、課題解決力といった実践的ビジネススキルが、多様な業界で通用している証左といえます。さらに、大学院進学やワーキングホリデーを選択する学生も一定数存在し、国内外を視野に入れた主体なキャリア形成が進んでいる点も本学の特色としてあげられます。

2026年度の就職活動は、引き続き早期化の傾向がさらに強まり、学部3年の夏ころよりインターンシップや各種プログラムに参加する学生が一層増加しています。一方で、自らの準備

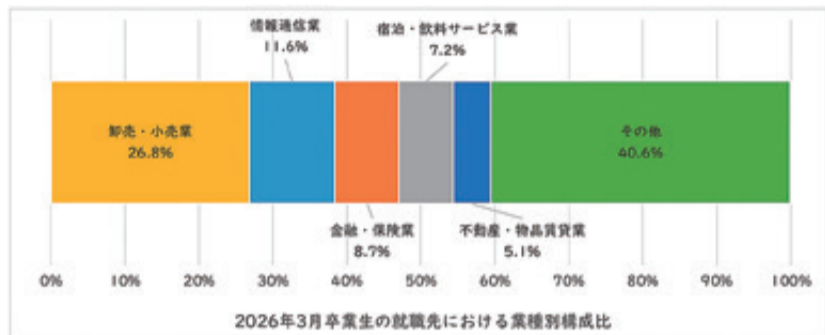
状況や志向に応じて活動の進捗を主体的に設計し、熟考を重ねながら着実に歩みを進める学生もみられ、活動時期の多様化と選択の幅が広がっています。こうしたなか、本学における合同企業セミナーや各種支援行事には多くの企業と学生が参加し、相互理解を深める機会として定着してまいりました。企業側からは、早期接点の重要性に加え、主体性や対話力を備えた人材への期待が高まっております。

また、学生の職業観も一層多様化しており、安定志向に加えて成長機会や社会的意義を重視する傾向、さらにはスタートアップや地域企業への関心の高まりも顕著です。背景には働き方の柔軟性や価値観の変化もあり、進路選択において「自分らしさ」を重視する姿勢が強まっています。

このような環境を踏まえ、本センターでは「早期化・長期化」対応にむけて質の高い支援を柱に、学生一人ひとりが納得のいく進路選択が実現できますように支援体制の充実に努めております。

本稿が皆様のお手元に届く頃には、『インターンシップ合同セミナー（2026年5月16日：北海学園大学にて開催）』も終了し、学生それぞれが新たな視座を得る契機となっていることに期待しております。

（キャリア支援センター長 伊藤 寛幸）



注) 調査対象138名 2026年3月31日現在



学内合同企業セミナー開催当日の様様（2026年2月26日）

9

10



特集 韓国語弁論大会大賞・金賞、その学びとは！

2025年の「第27回 北海道韓国語弁論大会」*で当時2年生だった飛谷百香さんが大賞（第1位）、小笠原海麗さんが金賞（第2位）受賞という、本校初の快挙を成し遂げました。2人是如何に韓国語の学びに取り組み、難しい大会で栄光を手にしたのか、その道のりについて話してもらいました。



● 飛谷 百香さん
観光産業学科3年



● 小笠原 海麗さん
観光産業学科3年

● 聞き手



李 鳳 先生
商学科 教授



益子 洋人 先生
商学科 准教授

● 1年生からの積み重ねが重要

李 飛谷さんと小笠原さんが、在日韓国人も出場する韓国語の弁論大会で上位を独占しました。2人とも留学経験がないながらも、2年生で韓国語能力試験（TOPIK）の5級に見事合格しています。2人は韓国語を学びたいと思って、韓国語教育が充実している本学へ入学したのですか？

小笠原 韓国語にはちょっと興味はありましたが、第一に学ぼうという感じではありませんでした。観光について勉強したかったので、韓国語はあとからついてきたというか。1年生の上級・中級・初級の3レベルでのクラス分けでは、私は中級からのスタートでした。実は、それまで韓国語はまったく学んだことがなくて、「この丸と棒はなんだ？」という状態だったんです。でも、負けず嫌いな性格もあって「自分のレベルがどこまで上がって、会話の幅がどれだけ広がるのかな」と考えたから、韓国語にズブズブはまっていきました。

益子 わからない状態から、どのようにレベルを上げていったのですか？

小笠原 2年生になって受けた李鳳先生の講義がほぼ韓国語で、言っていることが全然わからなかった。課題の範囲もわからないし、なにをやれと言われていたのかもわからない。でも逆に「これがわかるようになったら、みんなの一步先に行けるんじゃないか？」と。そこに負けず嫌いが出ているんでしょうね（笑）。私は、会話をすごく大事にしました。わからないから話さないじゃなくて、自分のわかる言葉を紡いで伝えるようにする。話しかけたいし、話したい。相手から韓国語で返事をもらえることが、勉強する上で糧にな

っていたと思います。

飛谷 私は高校生のときから独学で韓国語を勉強していました。観光にもちょっと興味があったので、観光と韓国語のどちらも本格的に学べる大学はここしかないと思い、入学しました。大学では1年生からほぼ毎日のように韓国語に触れるので、大賞を取れたのも、1年生からの積み重ねが大きかったのかなと思います。そして私の場合は、焦らずマイペースを心がけているかも。たとえば授業中、自分はわからない単語をまわりの人がわかっているときでも、焦って不安な気持ちになるのではなく「そういうこともあるよね」という感じで、韓国語が嫌いにならないよう、楽しく続けられるように気持ちを切り替えています。

● 留学経験を超える「自信」

益子 大会の原稿の文字数はどのくらいで、何分間？ どのように取り組んだのですか？

飛谷 文字数は2千字くらいで5分間。丸々暗記です。

小笠原 原稿ができたのが9～10月くらいで、私たちと先生との練習は3回ほど。1日10回くらいは暗唱しないと覚えられませんでした。

飛谷 シャワーしながらブツブツ言ったりして（笑）。

小笠原 先生が、私たちが書いた原稿を専門的な感じに直してくれたんですが、そうなる言葉も難しくなる。日本語訳を見てもわからない、聞いたことのない言葉もあるのを、1カ月くらいで丸暗記しました。

益子 それぞれ、なぜそのテーマを選んだのですか？

*「北海道韓国語弁論大会」…札幌韓国教育院の主催で、北海道地域における韓国への理解促進、日韓親善および国際交流の推進を目的として毎年開催。在日韓国人と道民が交流を深める中で、韓国文化と韓国語学習の魅力共有する貴重な場となっている。

● 飛谷 百香さん 大賞（駐札幌大韓民国総領事館 総領事賞）「韓国料理はなぜ食べたくなるのか」
● 小笠原 海麗さん 金賞（在日本大韓国民団北海道地方本部 団長賞）「韓屋（かんおく）の魅力」



写真：弁論大会授賞式

飛谷 「韓国料理はなぜ食べたくなるのか」は、SNSやYouTubeで韓国人の料理動画をよく観るのですが、どうしてこんなにおいしいそうなんだろうと普段から思っていて、その理由を考えました。韓国語を勉強し始めたきっかけはK-POPですが、今は料理のほうが、興味があります。

小笠原 「韓屋の魅力」は、もともと美術や伝統建築に興味があるのと、子どものころテレビの韓国の時代劇で観た伝統家屋（韓屋）が印象的だったからです。どのような考え方でこうした構造や様式になったのか、どのように自然や気候などに適応させたのか、なぜ美しく見えるのかを知りたいと思いました。

益子 2人とも留学経験がないというのが意外ですが、不利だとは感じなかった？

飛谷 受賞できた理由をひとつあげるとしたら、多分、私たち2人は堂々と人前で話せたというのが大きかったんじゃないかなと思います。留学経験があっても自信のない人、人前に立つと極度に緊張してしまう人はうまく話せないかも。

小笠原 私は苗字順でトップバッターだった

ので「どうしよう…」と思いました。でも逆に、最初だったから自信が持てたのかもしれないです。ほかの人の発表を聞かないで、自分が今までやってきたことだけを信じてやれるというのが大きかった。運が良かったかもしれないですけど。

飛谷 私も海麗の発表を見守ったあと、ほかの人の発表は見ずに、自分の番に備えて心の中で暗唱していました。結果、審査員長に「韓国のアナウンサーみたいだ」と評価されたのが、未だに信じられないというか。

小笠原 大賞は韓国との往復航空券、金賞は商品券3万円という副賞の大きさに驚いたのもあるし、表彰のされ方も相まって「夢かな」って（笑）。



中国煙台大学、韓国大田大学校の皆さん、ようこそ北海商科大学へ！

交換留学生歓迎会を開催

国際交流センター主催令和8年度交換留学生歓迎会を令和8年4月18日(土) 11:30より地下1階自由学習コーナーで開催いたしました。この歓迎会は、本学の新入留学生同士および日本人学生との交流を深めることを目的に開催しています。

今年度は、中国煙台大学交換留学生5名と韓国大田大学校交換留学生2名を迎え、本学有志の各先生（中国語担当の蘇先生、韓国語担当の水野先生、同じく李鳳先生、英語担当のニールセン先生、日本文学担当の保坂先生、また新任でマーケティング論を担当される張美慶先生）、さらに事務職員の方々・本学学生のみなさんが参加されました。

歓迎会冒頭、李鳳先生による乾杯から立食形式で歓談が始まり、本学の先生方のご挨拶と交換留学生のみなさんの自己紹介とを交えながら、本学学生と深交を交わし、会場は始終楽しい雰囲気でした。今年一年も留学生と日本人学生が深めた交友を支えに学びあうことを期待しています。今後は中国語の受講者がさらに増え、協定校たる煙台大学からのみでなく山東大学・威海分校からも交換留学生受入を再開したいものです。終盤に掛けては参加者で記念撮影を行い、後片付けをしながら散会いたしました。本年の授業が楽しく有意義なものになることを願っております。（国際交流センター長 原子 智樹）



写真上：歓迎会記念写真 写真下：各大学留学生の皆さん



11

中国 煙台大学から

写真下左：左から彭雪陽 ホンセツヨウさん、張聖茹 チョウ セイジョさん、楊思韻 ヨウ シンさん、劉思雨リュウ シュウさん、陳諾 チンダクさん

韓国 大田大学校から

写真下右：左から秋曜韓 チュヨハンさん、申姓虎 シンソンホさん

12

留学報告&便り

中国・煙台大学留学

●商学部2年 水野 陽奈

留学してすぐの頃は、様々な手続きと、慣れない環境に不安を感じる事が多かったのですが、1ヶ月が経つ頃には慣れていきました。授業も最初はほぼ理解できず、内容についていくのが大変でした。そのため、予習や復習は欠かせないと感じ、毎日少しずつ勉強するようにしました。1ヶ月ほど経つと授業も理解できるようになっていき、より有意義な時間を過ごせるようになってきました。また、放課後や、休日には友達と近くのショッピングモールへ出かけたりしてなるべく中国語を日常的に使うようにしてました。食事は、学校の食堂を利用することが多く、比較的安く、とても美味しいご飯が食べられるのでとても良かったです。店員さんもとても優しく、たくさんコミュニケーションをとる事が出来ました。今回の留学では、中国語の学習はもちろん、外国人との交流を通して、自分から積極的に行動することの大切さを改めて実感しました。私にとって非常に有意義な半年になりました。



写真：煙台市朝陽街で撮影

●商学部2年 中山 絢葉

私は去年の9月から今年の1月まで中国の煙台で生活を送りました。最初の頃は外へ出て何も分からないし、何を話しているかも理解できなかったため辛いと感じることも多かったのですが、1ヶ月、2ヶ月と暮らしていくうちに理解できることも多くなり段々と慣れていくことができました。私はこの留学生活の中で最も苦労したことがありました。それは学校生活です。北海商科大学で中国語を学ぶのも難しかったのに、煙台大学では中国語のみで授業をします。そして、周りの人も違う国の方が多いため一緒に留学に来た友達や先輩に教えて貰いながら勉強しました。さらに授業について行くために予習と復習を欠かさずしました。その結果だんだんと理解ができるようになり、少しだけ自信をつけることができました。この留学を通して普段では中々できない体験を身をもってすることができました。この経験は今後の私に大きな力になると思いました。

韓国・大田大学校留学

●商学科3年 坂本 萌穂

私は現在、韓国の大学に留学し、日本語や日本文学に関する授業を韓国語で学んでいます。前回の留学では、語学の習得が中心でしたが、今回は言語を一つの手段として、より深い学びにつなげたいと思い、再び留学を決めました。授業では、日本の詩や小説を韓国語で読み解に、翻訳や会話の実践を通して、言語を様々な角度から捉える力を身につけています。一度は聞いたことあるような文学作品に触れ、同じ作品でも、使う言語が変わることで新しい意味や感じ方が生まれることに面白さを感じています。韓国での生活は、異なる文化や価値観に触れる機会が多く、自分の視野を広げてくれていると感じます。日常の中で韓国語を使い続け、自然と表現力や理解力も高まってきました。授業後には友人とカフェで勉強したり、運動をしたりと、日々の時間も大切に過ごしています。これから残りの留学生活の中で、日々の時間を大切にしながら、様々な経験を積み重ねていきたいと考えています。また、一つ一つの学びを大切に、自身の可能性を広げていきたいです。



写真上から：MTの時、尤菴史蹟公園を訪問、いちご祭りに参加



13

写真：交流の輪がいくつもでき、歓談が続きました



写真：飛谷さん、小笠原さんが旅行中に撮影

飛谷 大賞か金賞かどっかが知らされずに、2人でステージに登壇して、そこで発表されたんだよね。

小笠原 上がる時、2人で顔を見合わせたもんね。

飛谷 そして副賞の航空券で、2人で韓国へ行ってきました！

小笠原 泊4日の旅で、去年まで本学に留学していたテジョン大学の女の子に会ってきました。ネイティブの人の会話のスピードに、「早！」って圧倒されて、固まって返事をする、みたいなことはありました(笑)。でも、言葉にはほとんど困らなかったです。

●人生で出会えた素敵な言語

益子 お二人は本学初の受賞者になりましたが、今後入学してくる学生も後に続く可能性があると思いますか？

小笠原 もちろん、努力をすれば結果が出ると思いますし、熱量があれば、絶対誰かが応援してくれます。これから入学する高校生や、1年生で韓国語を勉強している人、韓国語でなくても違うことを頑張っている人も、努力が積み重なることで結果はいつか出てくるはずですよ。

飛谷 大会に出るにあたって、ライバルであり友達でもある海麗の存在が、私にはけっこう大きかった。同じように切磋琢磨し合える友達、同じ言語を専攻している友達がいると、普段から韓国語を混ぜて話したりできるし、一緒に頑張れると思います。

益子 今後の韓国語との関わり方については、

どのように考えていますか？

飛谷 大学を卒業しても、趣味として学びを続けていきたい。私には目標があるんです。日本語で考えてから韓国語を話すのではなく、韓国語で考えてそのまま韓国語で話せるようになること。そして、韓国語で夢を見られるようになることです。

小笠原 韓国語はずっと大事にしていきたい言語なので、仕事にしろなくても、定期的に現地へ行ったり、ネイティブの友達と連絡を取り合ったり、一度人生に入ってきた言語であるからには、自分の第二言語として扱っていききたいなと思っています。人生の中で出会えた素敵な言語として、ずっと関わり続けていきたい。

李 TOPIKは何級まで取りたいですか？

飛谷・小笠原 もちろん、最上級の6級を目指して、取りたいです！

益子 最後に、大会へチャレンジしようと考えている後輩たちに、一言ずつお願いします。

飛谷 やる気と自信があれば、絶対なんとかなるし、結果も出ると思います！

小笠原 人生で1回できるかできないかの経験だと思うので、もし迷っているなら、そんなことをしている間に韓国語を勉強しよう！迷うならやろう！後悔を捨てよう！

李 念願の6級を取るのもぜひ見たいですね。なにより韓国語を学んだことによって、お二人の人生がさらに豊かになることを願っています。本当に貴重なお話をありがとうございました。



研究のいま ●伊藤昭男 教授



研究のスタートは、地域経済計量分析（システム・ダイナミクス・モデル、産業連関分析、マクロ計量経済モデル、空間価格均衡分析等）からであるが、その後、環境経済、農業経済分野にも研究対象領域を広げ、その間、Regional Science Association International: RSAIを主に各地（アメリカ、イギリス、オランダ、カナダ、スイス、オーストラリア、インドネシア、モンゴルなど）の国際学会において発表を実施した。また、シンガポールのInstitute for Southeast Asian Studies: ISEASで客員フェローとして（1994年8～9月）、中国社会科学院

世界経済与政治研究所で訪問研究員（2009年8～9月）として滞在した。大学の札幌移転後は、北東アジア研究交流センター研究員として中国社会科学院・ベトナムホーチミン社会科学院・韓国大田大学地域協力研究院との共同研究・研究交流活動、また、開発政策研究所での研究調査（タイ、台湾）に従事（各種発表等）すると共に、北海道地域観光学会を設立し、地域観光研究活動を継続している（初代および第4代会長、現在顧問）。最近の研究は、こうした若い頃のオーソドックスな演繹的実証的な研究から、研究アプローチの複合化や既存学問分野の垣根を超えた思考による研究活動（構想を含む）に興味・関心が移っており、実施・思考中の研究活動は概ね以下のように分類できるかと思われる。（1）「反均衡の経済学」に関する研究。これまで継続してきた既存の主流派経済学への批判的研究に関する発展的研究として、地球物理および生物世界の法則に矛盾しない「反均衡の経済学」に関して世界の注目すべき研究に焦点をあて探求している。（2）「自律的地域観光」に関する研究。「自律的な観光まちづくり」、「国際化と地域観光開発」をキーワードに活動・考察・成果報告をしている（適宜、発表・成果は、学会HPおよび「北海道地域観光学会誌」に掲載されている）。また、長年、スイス・ザンクトガレン大学に事務局本部があるInternational



*写真左: 要塞国家マルタ: ヴァレッタ・グランドハーヴァー。写真右は学会パネルディスカッションと諸論文成果



Association of Scientific Experts in Tourism: AIESTの正会員（昨年よりシニア会員）であり、ヨーロッパの観光研究動向に関心を払っている。（3）『北海道史』の執筆活動関連。北海道知事より「北海道史編さん委員会専門委員（産業経済部会所属）」に任命されており、「北海道観光史」の執筆を担当している（「通史編1」および「通史編2」の2巻が後日刊行される予定）。また、これとあわせて同委員会所属委員が原則執筆者となっている『北海道史への扉』（道史編さん機関誌）第7号、23-26頁に拙稿「主体的北海道開発について」が掲載された。（4）研究関連構想等。研究というより趣味的探究活動あるいはライフワークに近いともいえるが、目下、以下の研究構想の下、文献サーベイを実施中である。i) 「西洋・東洋の歴史からみた崩壊学の探求」。西ローマ帝国の崩壊、それとほぼ同時期の中国・西晋の崩壊、そしてアメリカ帝国の崩壊について、その共通法則的理解を探求する。ii) 「ユートピア思想についての考察」。ヨーロッパ中近世のユートピア文学を主に、中国・日本のユートピア文学も加えながら、これからの社会をどのようにデザインしていけばよいかについての手がかりを探求している。【補足：現在関心がある諸外国・地域は、マルタ・アスペン・デンマーク・北イタリアと、その他人口1000万人以下の先進諸国。】



ザンクトガレン大学の教員と

中国語の学びについて

◆◆◆◆ 「漢語橋」・中国語スピーチコンテストで好結果 ◆◆◆◆

毎年行われる全日本大学生中国語スピーチコンテスト・「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道ブロック地域の決戦大会において、昨年本学から出場した久保詩音さん、蛭名萌花さん、後藤亜由未さんが全員入賞したという素晴らしい成果を収めました。蛭名さんと久保さんに本学での中国語の学び、そこから得られたことや今後の抱負を語っていただきました。

●商学科3年 久保 詩音

私は高校から中国語を学んでいたのですが、真剣に「発音」と向き合ったのは大学に入ってからでした。1年生の時、運良く全国大会に出場できたものの入賞はできず、優勝者との圧倒的な差に打ちのめされたと同時にまだこれだけ改善できることがあるとワクワクし、翌年のリベンジを誓いました。

次こそは入賞するためにやれることは全てやろうと決め、1年後期に煙台大学へ短期留学をし、帰国後も中国語に触れる時間を増やすためにアルバイトをホテルのフロントに変えました。そして迎えた2年生の全国大会、私は3位に入賞することができました。

この結果を出せたのは、休日や空きコマに何時間も指導して下さった先生や、共に切磋琢磨した友人の支えがあったからです。しかし、大会を通じて得られた一番大きなものは、入賞という結果や発音の技術ではなく、志を同じくする仲間でした。

前回の大会で競い合ったライバルと再会し、「応援しているよ」と声をかけてもらったことや、大会後の研修旅行で年齢や地域を超えた尊敬できる友人ができたこと。彼らとの出会いは、私の世界を大きく広げてくれました。

「またみんなと再会するために、もっと自分を磨こう」と思える仲間に出会えたことが、何よりの財産です。勇気を出して一歩踏み出し、このコンテストに参加して本当に良かったと心から感じています。



写真：写真左が久保詩音さん、右が蛭名萌花さんのコンテストの様子。写真上は蛭名萌花さん、昨年10月に行われた第43回「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」表彰式の様子

●商学科3年 蛭名 萌花

私は様々な経験をしたと考え、1年生の頃に出場したスピーチコンテストをきっかけに、2年生以降も出場を続けています。

2025年5月には「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道ブロックで2位を受賞し、北海道代表として6月の日本予選に出場、優秀賞という結果を残しました。

「漢語橋」ではスピーチに加え、中国百科知識クイズや特技披露も評価対象となります。私は特技披露で中国民族舞踊に挑戦しました。ダンス初心者でしたが、先生のご友人のご指導のもと、鳥をイメージした踊りを披露しました。爪先までしなやかな動きや表情を意識し、約2か月間、朝から夜までスピーチと舞踊の練習に励みました。

また、10月に行われた全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会では3位を受賞しました。

これらの経験を通して、中国語の発音の向上に加え、内容だけでなく「どのように伝えるか」の重要性を学びました。本番を重ねる中で人前で話すことにも自信が付き、努力を継続することの大切さを実感しました。

数々の大会で賞を頂いたのも先生のご指導のおかげです。今後はこの経験を後輩にも伝え、スピーチコンテストに挑戦する人を支えていきたいと考えています。

《蛭名さんの受賞歴》

- 2024年10月12日、第42回「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」スピーチ大学生・一般の部で3等賞
- 2025年5月25日、第6回全日本大学生中国語スピーチコンテスト・第24回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道ブロック地域の決戦大会で「漢語橋」二等賞
- 2025年6月21日、2025年度第6回全日本大学生中国語スピーチコンテスト並びに第24回「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテスト日本予選で「漢語橋」優秀賞
- 2025年10月11日、第43回「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」で「大学生・一般の部」で第3位（北海道新聞社賞）

《久保さんの受賞歴》

- 2024年5月26日、2024年第5回全日本大学生中国語スピーチコンテスト・第23回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北日本ブロック（北海道・東北地方・長野・信越地方）予選大会で全日本大学生中国語スピーチコンテスト予選の二等賞
- 2024年6月22日、第5回全日本大学生中国語スピーチコンテスト大会および第23回「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテスト日本全国決勝大会で優秀賞
- 2025年5月25日、第6回全日本大学生中国語スピーチコンテスト・第24回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道ブロック地域の決戦大会で中国語スピーチコンテストの一等賞
- 2025年6月21日、2025年度第6回全日本大学生中国語スピーチコンテスト並びに第24回「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテスト日本予選で全日本大学生中国語スピーチコンテストにおいて第3位

16

14 15

17

18



研究のいま ●水野俊平 教授

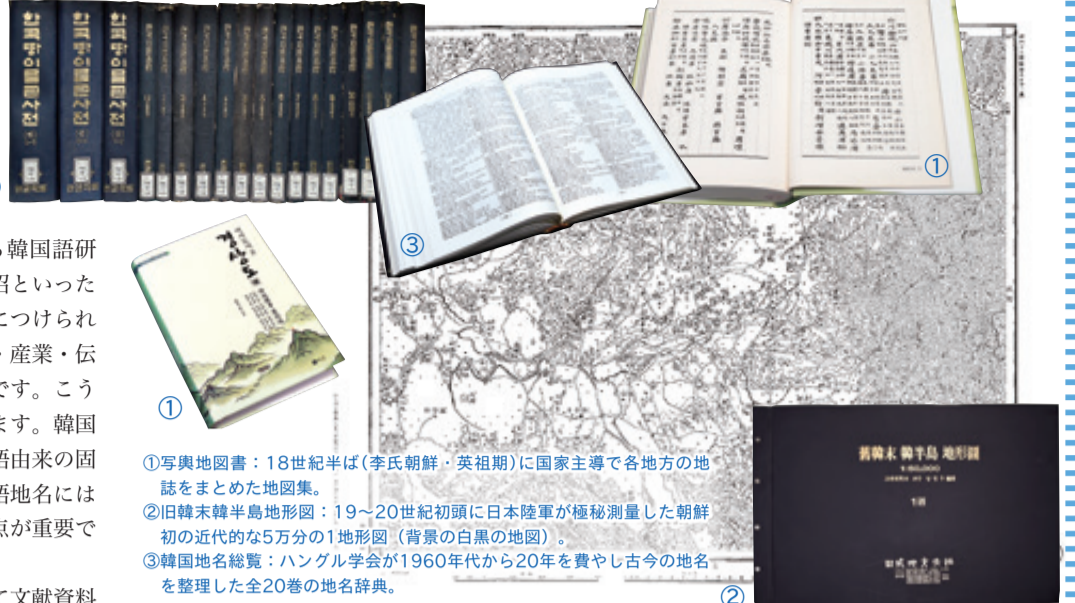
地名による韓国語研究



私が現在進めている研究は「地名による韓国語研究」です。地名とは、山・川・谷・湾・湖沼といった自然物や、村落・農地・城塞などの人工物につけられた固有名詞であり、その地域の地形・歴史・産業・伝承・生活文化が反映された貴重な地域情報です。こうした地名は朝鮮半島全域に広く分布しています。韓国の地名は、漢字語由来の漢字語地名と固有語由来の固有語地名に大別されますが、とりわけ固有語地名には韓国語の古語や方言が豊富に含まれている点が重要です。

これまで、韓国語の古語研究には主として文献資料が用いられ、方言研究には方言調査によって得られた方言資料が用いられてきました。しかし、文献資料は中央語であるソウル方言に偏りやすく、地域差を十分に反映していないという問題があります。また、方言資料は調査対象者が限られるため、得られる語彙の種類や量に制約があり、通時的な語彙変化を追跡することが難しいという限界を抱えています。これに対して、地名資料は量の豊富さ、正確な地理情報、古形の保持という特性を備えており、文献資料や方言資料の弱点を補完することができます。

まず、地名は朝鮮半島全域に分布しているため、そこから抽出できる方言語彙の量は方言資料をはるかに上回ります。たとえば、韓国の代表的な地名事典である『韓国地名総覧』には62万件もの地名が収録されており、その中には膨大な語彙が含まれています。この量の豊富さにより、地名から抽出した語彙の出現頻度や分布を統計的に扱うことが可能になります。



①写輿地圖書：18世紀半ば(李氏朝鮮・英祖期)に国家主導で各地方の地誌をまとめた地図集。
 ②旧韓末韓半島地形図：19～20世紀初頭に日本陸軍が極秘測量した朝鮮初の近代的な5万分の1地形図(背景の白黒の地図)。
 ③韓国地名総覧：ハングル学会が1960年代から20年を費やし古今の地名を整理した全20巻の地名辞典。

また、地名には必ず正確な位置情報が付随しているため、方言語彙の分布密度を地図上に可視化できます。これは、調査地点が限られる方言調査では実現できなかった分析であり、語彙の拡散方向や方言境界の位置をより高い精度で推定することができます。

さらに、地名は地域社会で長期間保持されるという保守的な性質を持つため、現代語には残らない古い語形を保持している場合が多くあります。たとえば、『韓国地名総覧』に収録されている「岩地名」を分析した結果、現代標準語の「パウイ(바위)」はソウル周辺のみ分布し、その周囲には「パウ(바우)」という方言形が広がり、さらに外側には「バク(바구)」「バング(방구)」「バンウ(방우)」といったより古い形が残存していることが明らかになりました。最も外側に位置する語形は、文献資料では遡ることができない韓国語古語の痕跡を保持していると考えられます。このように、地名資料は韓国語の歴史的な音韻変化や語彙変化を推定する上で重要な手がかりを提供してくれるのです。



ゼミ集合写真



写真上はプログラミング作業、下は企画発表の様子



2024年度、本学に新たに加わった三田村教授の専門は、観光情報学、人工知能(AI)、そしてゲーム応用です。これらの分野は、ゼミでは「情報をいかに活用し、新しい体験を生み出すか」という一つの軸で繋がっています。ゼミナールの内容は、プログラミングといった基礎技術の習得はもちろん、それらを社会課題にどう適用させるかという実践的なカリキュラムが組まれています。特に、日本屈指の観光地である北海道において、観光情報学の観点から地域課題を解決しようとする試みは、本学ならではの大きな特色と言えるでしょう。

三田村ゼミの最大の武器は、その「実践力」にあります。ゼミでは三田村教授の指導のもと、チームを組んで学外のコンテストへの積極的な挑戦をしています。ゼミ生たちは日頃の研究成果を發揮し、2年連続でゲーム学会ゲームコンペにおいて入賞という実績を取っています。この快挙は、単に技術力の高さだけでなく、「ユーザーにとっての価値ある体験とは」という視点を常に持ち、アイデアを形にする力が評価されています。入賞を経験した学生の一人からのコメントは、「メンバー全員がゲーム制作初心者でしたが、アイデアを出し合い、試行錯誤を重ねながら完成させることができました。この貴重な経験を糧に、今後もしっかりと挑戦を糧に、今後もさらなる精進を続けていきたいと思っています。」とのこと。

そんなストイックな実績の一方で、ゼミの雰囲気は非常にアットホームです。三田村ゼミのユニークな点は、「ゲーム大会」が開催されること！これは単なる息抜きではなく、「ゲーム応用」を専門とする三田村教授の考えに基づき、ゲームのUI(操作性)やUX(ユーザー体験)、そして人々を熱中させる仕組みを身をもって体験することも重要な学びの一環なのです。真剣な研究の合間に、全力で遊び、交流を深めることで、チームワークがさらに深まっています。三田村ゼミは、最先端のIT技術に触れたい人はもちろん、「新しい企画で人を楽しませたい」「観光の力で地域を盛り上げたい」という熱意を持つ学生にとって、最高の舞台となるはず。三田村教授よりメッセージ)

「AIやゲームの技術は、今やあらゆる分野で必要とされています。難しく考える必要はありません。まずは『面白い!』という好奇心を持って、一緒に新しい挑戦をしましょう!」

ゼミ訪問 ◆三田村保 教授 観光研究ゼミナール
 観光学科の3年次前期、4年次前期に開講されている「観光研究ゼミナールⅡ・Ⅳ」。観光研究ゼミナール(2年次後期)・Ⅲ(3年次後期)での取り組みの成果と課題を踏まえて、テーマ別活動(アクティブラーニング中心)により、世界中の北海道の現状を知り課題を見つけ出す力を養うことを目指しています。



レスブリッジ滞在記

坂口 可奈 商学科 准教授

2026年1月から4月まで、カナダのレスブリッジ大学に交換教員として派遣され、“Japanese Society”という講義を担当してきました。現地では多くの教職員の方々大変親切にいただき、ロッキー山脈や世界遺産のヘッドスマッシュトイン・バッファロー・ジャンプ、さらにはアイスホッケー観戦にも連れて行っていただきました。授業準備や研究で忙しい日々ではありましたが、発見と学びの多い夢のような4か月でした。

私は、これまで単発の英語講義の経験は幾度もあったものの、セメスターを通して全て英語で授業を行うのは初めてだったので、当初は非常に緊張していました。しかし、実際に授業が始まると、いつもと変わらずに講義を行うことができました。また、授業準備を通じて、自分自身も日本文化と日本社会を再確認できたことも大きな収穫でした。カルガリー総領事館主催の剣道を通して日本文化を紹介するイベントなどに学生と参加し、授業以外で学生たちと日本文化について話せたことも良い思い出です。

唯一残念だったことは、学生の多くは日本のアニメが好きで日本に良いイメージを持っている一方、そのイメージは必ずしも現実の日本に基づくものではないとわかったことです。憲法九条や現代の日本国内の多様性について説明した際、学生たちが非常に驚いていたことが印象に残っています。考えていたよりもカナダでは現実の日本が知られていないと痛感すると共に、この交換教員プログラムで日本文化や日本社会を教えることの意義の大きさを実感しました。

最後に、これから留学する学生には、自国の文化や社会についてしっかり学んでから渡航してほしいと思います。外国では、様々な分野について「日本ではどうなのか」とよく聞かれます。この質問に答えられるように、まずは日本のことを学んでください。自国をよく知ることこそが国際交流の基礎なのです。

写真左上：レスブリッジの夕焼け。右上：ハイレベルブリッジと大学をのぞむ。右下：宿舎から大学までの道でよく見かけた鹿



新任教員・職員紹介



■新任教員
張 美慶
チャン ミギョン
商学科講師

マーケティング、韓国観光の科目を担当しております、張美慶です。

専門分野は観光産業と消費者行動です。

現代は「融合」が重要な時代であると考えています。幅広い分野の学問や技術の融合は新たな価値創造へとつながります。そのためにも、皆さんにはさまざまな経験を積み、多様な分野に挑戦してほしいと思います。考えるだけで立ち止まっていたら、それ以上の成長はありません。

アップルの創業者の一人であるスティーブ・ジョブズは、「人生は点と点でつながっている」と語りました。一見失敗だと思える経験も、時間が経って振り返ってみれば、成長や成功へとつながっているものです。私自身も、当時の選択を後悔したことがありましたが、振り返ってみると、それはとても貴重な経験でした。

恐れずに行動していけば、きっと皆さんは自分の望む道を自信を持って歩いていきます。是非ご自身の可能性を発見されることを願っています。

どうぞよろしくお願いいたします。



■新任職員
宮本 嘉秀
ミヤモト ヨシヒデ
庶務・会計担当

4月より北海商科大学事務室（主に庶務・会計担当）に配属となりました、宮本 嘉秀と申します。

北海学園大学を卒業後、24年間北海高校事務室に勤務し、高校事務に関する業務に携わってまいりました。

大学での業務は初めてで、不慣れな点も多く、日々学びの連続ではありますが、これまでの経験を生かし、学生の皆様が安心して充実した学生生活を送れるよう、誠心誠意努めてまいります。

何卒よろしくお申し上げます。



■事務室前



■新任職員
小澤 杏奈
オザワ アンナ
入試・広報センター

この度、北海商科大学 入試・広報センターに着任いたしました、小澤杏奈と申します。

これまでの経験を活かしながら、本学の魅力をより多くの方にお伝えできるよう努めてまいります。

まだ不慣れな点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、一日も早く業務に慣れ、大学の発展に貢献できるよう精進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお申し上げます。



■新任職員
楠 智裕
クスノキトモヒロ
教務センター

皆さん、こんにちは。4月から教務センターの業務に携わることになりました楠（クスノキ）と申します。

3月までは北海学園大学で3つの学部、資格関係を取り扱う教務センター、専門図書館のカテゴリーに属する開発研究所に関わってまいりました。

今後は、皆さんの教務面のサポートに努めたいと思っています。よろしくお願いたします。

STAFF NOW!

木村 朱里 [キムラ アカリ]



私は現在、キャリア支援センターと国際交流センターの業務をメインで行っています。どちらも学生と関わりが多い部署であり、毎日たくさんの刺激を受けています。商科大学の学生は素直な方が多いです。就職活動のアドバイスなどを熱心に聞いてくれるため、少しでも役に立ちたいという思いから常に最新の就活情報を調べています。また、語学に力を入れている大学のため、留学をする学生がとても多いです。私は元々語学に興味がありませんでしたが、学生

から刺激を受け、社会人になってから韓国語の勉強を始めました。若者の刺激を毎日受けられることが、この仕事の特権だと思っています。

この仕事に就いて今年で5年目ですが、まだまだわからないことも多いです。自分が学生にするアドバイス全てが正しいとも思っていません。そのため学生にアドバイスをする際は「これは一つの考え方だから、話を聞いたうえで、自分自身の考えを大切にしてください」と伝えています。ただ答えを教えるのではなく、考える力を涵養することが、教員だけでなく職員の仕事でもあると考えているため、今後も少しでも学生の考える力を養うことができるよう、自身の知見を高めていきたいです。



写真：レスブリッジ大学との交流で



新刊紹介



『中国年鑑2026』
佐藤千歳(本学教員)共著
2026年4月/中国研究所



日本国際文化学会編『共に生きるための国際文化—文化の「あいだ」をつなぐ第一歩』
坂口可奈(本学教員)ほか共著 2026年1月/昭和堂



『多民族都市国家シンガポールの言語・文化政策の60年—国民統合政策と華語・華人エスニシティ維持・継承への模索』
坂口可奈(本学教員)ほか共著 2026年3月/ひつじ書房

21

22
23

@カウンセリングルーム Newsletter 13

「ひとりで抱えないために」



カウンセリングルーム **小林 美穂子**
(臨床心理士・公認心理師)

大学の学生相談室では、日々さまざまな背景をもつ学生さんの声に耳を傾けています。新年度が始まる春先は、環境の変化に戸惑いを感じる学生さんが多く、履修や人間関係についての相談が増える時期です。一方で、学年が進むにつれて、就職活動に関する悩みや将来への不安、心身の疲れに関する相談も目立ってきます。

相談室では、学生さん一人ひとりの状況やペースを大切にしながら、丁寧に話をうかがうことを心がけています。悩みの内容が整理できていない段階でも構いません。「何となくつらい」「誰かに聞いてほしい」といった思いを言葉にすること自体が、心の負担を軽くする一歩となることがあります。

なお、相談内容については守秘義務が守られておりますので、安心してお話いただけます。近年は、「誰かに相談したい」と感じながらも、ぎりぎりまでひとりで抱え込んでしまう学生さんの姿も見受けられます。相談室は、困りごとが大きくなる前に立ち寄れる場所でありたいと考えています。どんな小さいことでも構いませんので、気軽にご相談ください。

[カウンセリングルームの予約方法] 利用時間：[火曜日] 14:00~18:00
まずは、メールで予約をしてください。e-mail: soudan@hokkai.ac.jp
予約の際は、①氏名 ②学籍番号 ③希望日時をお知らせください。
その際、差し支えなければ簡単な相談内容も書き添えてください。
折り返し、相談日時などについてのメールをさしあげます。

行事予定

(2026年6月7日現在)

6/14日	第1回オープンキャンパス	9/17日	全学年履修登録訂正日
6/30日	2年次所属学科選択「志望学科届」回答期限	9/19日	後期講義開始
8/1日・2日	第2回オープンキャンパス	9/27日	第3回オープンキャンパス
8/4日	前期講義終了		総合型選抜(1期)事前指導日
8/5日	夏季休業開始、前期・成績開示	10/15日	振替講義日(月曜日)
	2年次所属学科発表	10/17日	総合型選抜(1期)事前指導日
8/5日~8日	前期・成績異議申し立て受付[オンライン]	10/23日~30日	履修登録科目の取消受付
8/13日~16日	全学休業日	10/25日	総合型選抜(1期)試験日
8/27日	海外語学留学生出発【韓国】	11/6日	振替講義日(火曜日)
9/5日	前期・修学指導面談(卒業延期者)	11/14日	後期・修学指導面談(出席不良者)
9/8日	海外語学留学生出発【中国】	11/25日	振替講義日(月曜日)
9/9日	夏季休業終了	11/29日	学校推薦型選抜(指定校制・公募制)試験日
9/10日	各センターガイダンス		特別選抜(海外帰国生徒)試験日
9/11日	1年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)	12/12日	総合型選抜(2期)事前指導日
9/11日	北海商科祭準備日	12/20日	総合型選抜(2期)試験日
9/12日	北海商科祭		学校推薦型選抜(併設校)試験日
9/14日	2年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)	12/26日	冬季休業開始
9/15日	3年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)	2027/1/6日	冬季休業終了
9/16日	4年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)	1/7日	授業再開/振替講義日(月曜日)

《大学問い合わせ受付時間》■本学連絡先(代表) 011-841-1161

◇月~金 9:00~12:40 13:30~16:00 ◇土 9:00~12:40
*但し 日曜日・祝日・創立記念日(5月16日)
・夏季休業(8月中旬)・年末年始は除く
*記事の掲載内容に変更が生じる場合があります。
随時大学ホームページ(https://www.hokkai.ac.jp/)でご確認ください。

